
はじまりの手のひら

小南柑那

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

はじまりの手のひら

【Nコード】

N7688Z

【作者名】

小南柑那

【あらすじ】

大学1年の冬、珍しく雪が降り積もったその日、小さな出会いがあった。守りたい、と思うのは可笑しな事なのだろうか。気持ちの所為で傷つくなら、いっそ消してしまえば良いのだと、どうして気づけなかったのだろうか。思い願いは交錯する、けど『答』はここにあった。新蘭

第1話　　はじめり（前書き）

新連載です。

不定期なものになるかと思いますが、よろしくお願い致します。

第1話 はじまり

朝から降っていた雪は、少しだけ積もっていた。
いつもの道は白くて、灰色の空に映えて綺麗だとか
そんな事を考えた。

空、と雪。

道と足跡。

言葉になれば、次々に頭を巡る。

この光景も、景色も、空気も

いつから

変わっていないのか

いつか

変わるのか。

解るわけもない、だから
滑稽に思った。

はじまりの手のひら

一方の彼女は、指と指を触れるだけに合わせて息を吐いた。
白く、それは姿を見せて
ゆっくりと消えていく。

「冬、だね」

蘭はそう呟き、
ふ、と小さく微笑んだ。

隣の青年は、不思議そうに横目で見て、
外套がいたうのポケットに手をつ突っ込んだ。

「お前冬好きだったっけ？初めて知った」

新一は眉を下げて少し笑い、自身のマフラーに顔を埋うすめた。
首だけで返事した蘭は、息を吸って小さく空を仰いだ。
何か懐かしそうに、細めた瞳。
それがこの景色には似合い過ぎた。

「……冬には思い出が有りすぎる。新一が居なくなったのも冬だった」

「はは……いい思い出じゃねえし」

そつだね、と再び笑った蘭は
手を伸ばし、落ちる雪をそつと掬すくい上げた。
内に残る雪は、するすると溶けていく。

最後の一片も消えた。

「また何か、あるんじゃないかって……そんな事考えるんだ」

目が泳ぐ。

どうしても、そればかりは
止める事は出来ない。

「じめん……」

「ほんとにね」

蘭は足を止めて、くるりと新一に向き直った。
悪戯な笑みが、なんとなく心地良い。

不意に溢れた自身の笑みを
……隠した。

*

気が付いて前を向いたら、足跡の何も無い道で
後ろには二人分の跡しか残っていなかった。
強くなる雪はそれさえも消してしまおうとする。

「^{さみ}寒い……」

こつこつと吹く風は止まない。
刺すような冷たさに顔をしかめた。

「早く帰ろ。帰ったらあったかいもの、入れてあげる」

もうすぐそこは家。

大学に入学してからは一緒に帰る事も多くなった。

あと50メートル。

足を止めた。
止まった。

玄関、門の前に誰か立っている。

傘で顔はすっかり隠れてしまっている。

けど、身長を見る限り子どもだと見当がついた。

再び歩みを進めた。

足音が重く響く。

傘がゆっくり持ち上がって、そうしたら自身を見上げる瞳があった。

傘の雪が、ぱらぱらと落ちては足元に積もっていく。

「あ……」

頬も手も、真っ赤で
落ちた雪も多かった。

どのくらいの時間、ここに立っていたのか想像出来ない。

「大丈夫か？」

しゃがみ込んで、目線を合わせてみる。

こくりと頷いたその男の子は、また深く傘を被ってしまった。手元をぎゅっと握っている姿しか見えなくなった。

新一はマフラーと手袋を抜き取り、器用にその男の子に着けていく。

「ねえ新一。誰？その子」

後ろから掛かる蘭の声に振り向いて立ち上がった。

「わかんねえ。迷子かな……」

そう言っても全く顔を見せようとしない。

身体には合わない大きな傘を重たそうに揺らすだけ。

気のせいだろうか。

傘の、中から

下に何か落ちた気がした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7688z/>

はじまりの手のひら

2011年12月25日01時46分発行